



こんにちは!

市議員 井坂博文 です



連絡先/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町 78 / 電話 432-3261 / FAX441-4968

3月予算市会で予算は 成立したものの。。。。

3月20日、2月予算市会が終了し、昨年4月から開会されていた2017年度の通年議会が閉会しました。

今市会では、2018年度予算案が提案されました。予算案は、国の地方創生路線の下で「文化で稼ぐ」都市経営を柱に据え、①生活保護費の削減など社会保障の切り捨て、保育料引き上げ・深草墓園納骨堂使用料の値上げなど「ゆりかごから墓場まで」の市民負担増、②区役所窓口業務の民間委託など公務の産業化で、民間企業に儲けの場を提供し、更なる職員削減による市民サービス切り捨て、過労死を生むような長時間時間外勤務を強いる、



③「財政が厳しい」と言いながら、投資的経費が過去10年間で最高額となるなど大型公共事業を拡大し、将来に莫大な負担を押しつけるもの、が特徴でした。

党議員団は、予算案に対して市民の暮らしを応援する内容とするために7点にわたる組み換え動議を提出し、その財源のために大型事業の見直しと不要不急の事業の中止を提案しましたが、他の会派及び無所属議員

員の反対で否決されました。

その上で、党議員団は予算案に反対し、終了本会議で井上議員が討論に立ち、その理由を述べました。また、自民、公明、民進と無所属議員(3人)は予算案に賛成し、京都党と日本維新の会は反対しました。市会議員67人のうち26人(39%)が予算案に反対したことになり、反対の理由はそれぞれですが、私が議員になってからは最大の反対数です。

他の議案への態度や、議会論戦の特徴は市会議員団ホームページの「終えて声明」をお読みください。

京都府知事選挙を 終えて考えてみた

民主府政の会やつなぐ京都の「選挙まとめ」は別途出されますのでお読みください。

NHK 京都放送局が府知事選における投票所での出口調査の結果をまとめています。その中で私が注目した記述を紹介し、私の感想を述べたい。

【支持政党】

投票を終えた有権者にふだん支持している政党をたずねました。

自民党と答えた人が37%と最も多く、次いで共産党が12%、立憲民主党が9%、公明党が4%、日本維新の会が



3%、民進党が2%でした。一方、「特に支持している政党はない」と答えた、いわゆる無党派層は31%でした。

【支持政党別】

今回の選挙では、自民党、立憲民主党、公明党、希望の党、民進党が西脇さんを推薦し、共産党は福山さんを推薦しました。

支持政党別に、誰に投票したのかを見てみますと自民党の支持層では、80%台半ばが、公明党の支持層では、90%台半ばが西脇さんに投票しています。また立憲民主党の支持層では、40%台半ばが西脇さんに投票した一方、50%余りが福山さんに投票しています。共産党の支持層では、90%余りが福山さんに投票しています。

また、特に支持している政党はないと答えたいわゆる無党派層のうち、40%台後半が西脇さんに投票したと答えたのに対して、50%余りの人が、福山さんに投票したと答えま

した。
(以上、まとめの引用)

※この結果が示すように、立民党は西脇氏を推薦したものの立民党支持者の大半は離反し、おおっぴらに宣伝カーや演説会で「福山支持」を表明し、多くの方が選挙事務所ポランテイヤスタップとして活躍された。

また無党派層の過半数は福山氏を選んだことになる。これがもつと広がれば「共産VS非共産」という一部マスコミの皮相な見方は通用しなくなると思う。

一方で、西脇陣営は徹底して公開での論争を避け、あいまいで抽象的なスローガンに終始して、まともな政策論争による争点化から逃げたことには否めない事実だ。16年ぶりの新人対決、しかも一対一の選挙になったにも関わらず、戦後二番目に低い投票率になった背景と理由をはっきりさせるべきではないか。

